

# プレス発表資料



令和 8 年 4 月 23 日  
秋 田 大 学

## 秋田県において食道腺がんの増加傾向が継続していることを確認 ——最新のがん登録データ（～2024 年）による解析——

秋田大学（学長：南谷佳弘）大学院医学系研究科 消化器内科学・神経内科学講座の飯島克則教授、渡邊健太助教、同臨床腫瘍学講座の柴田浩行教授らの研究グループは、秋田県内のがん診療連携拠点病院等が協力して構築するがん登録データを用い、食道がんの組織型別発生動向を解析しました。その結果、日本では従来まれであった食道腺がんが、2010 年頃から増加し始め、その傾向が 2024 年まで持続していることを明らかにしました。

本研究は、これまで 2014 年までしか評価されていなかった日本における食道腺がんの動向を、最新のデータに基づいて検証したものであり、我が国における将来の食道がん対策を検討する上で重要な知見と考えられます。

本研究結果は、消化器領域の国際学術誌 *Journal of Gastroenterology* に掲載予定です。（情報解禁日：2026/4/9 オンライン）

### 研究のポイント

- ・食道がんには主に扁平上皮がん、腺がんの 2 つの組織型があり、日本ではその約 90% を扁平上皮がんが占めています（喫煙、飲酒が主な危険因子）。
- ・欧米では、1960～70 年代以降、肥満や胃食道逆流症の増加を背景に食道腺がんが急増し、現在では食道がんの主流となっています。
- ・日本では、これまで食道腺がんは、まれと考えられていましたが、秋田県では 2010 年頃からその増加が確認されていました。
- ・今回、最新のがん登録データ（～2024 年）を用いて解析した結果、食道腺がんの患者数、および発生率が、この 10 年間で約 2 倍に増加していることが明らかになりました。
- ・特に男性で顕著な増加が認められ、日本においても欧米と同様の疫学的変化が進行している可能性が示唆されます。

## ○ 研究の詳細

秋田県は全国的にみて食道がん患者数が多く、人口構成や人口移動が比較的安定していることから、長期的ながん発生動向を評価するのに適した地域とされています。県内では、秋田大学医学部附属病院を含む複数の主要医療機関が連携して、新たに診断されたがん症例の90%以上を網羅するがん登録システムを運用しています。

本研究では、この登録システムを用いて、2007年から2024年までに登録されたすべての食道がん症例を解析し、扁平上皮がんと腺がんの発生動向を比較しました。

その結果、食道腺がんの症例数は、2010～2014年と比べて2020～2024年では約2倍に増加しており、全食道がんに占める割合も着実に上昇していました。また、年齢調整発生率の解析から、食道腺がんは統計学的に有意な増加傾向を示しており、その主な要因は男性患者の増加であることが明らかとなりました。

さらに、診断時病期をみると、近年では早期の食道腺がんがより多く発見されるようになって一方、進行例も依然として増加していることが確認され、単なる診断技術の向上だけでは説明できない「実際の患者数増加」が起きている可能性が示されました。

食道腺がんは、扁平上皮がんとは原因、診断法、治療方針が大きく異なる疾患です。日本では依然として発生率は低いものの、今後の生活様式や感染症構造の変化に伴い、さらなる増加が懸念されます。今回の結果は、日本における新たな食道がん対策の必要性を示唆する重要な知見と考えられます。

### 【論文題目】

A steady increasing trend in the incidence of esophageal adenocarcinoma in Akita Prefecture, Japan, through 2024

(邦訳)「秋田県における食道腺がん発生の増加傾向：2024年までのがん登録解析」

### 【申込み・問い合わせ先】

秋田大学医学系研究科 消化器内科学・神経内科学講座  
特任助教 渡邊 健太

(研究内容)

Email : nabeken@med.akita-u.ac.jp

(その他)

電話 : 018-884-6104 (医局)